

協会活動強化し「価値」向上

5月の総会で任期満了に伴う役員改選が行われ、3期6年にわたって会長を務めた豊田剛氏が勇退し、後任に山口巖副会長が就任、渡邊裕之副会長と鳥越雅人副会長が再任し、新副会長に渡辺健司会計理事と細沼順人理事、森栄理事を選出した。豊田前会長が東日本大震災を受けて力を注いだ災害対応や「担い手確保」に向けた取り組みの加速化に大きな期待が集まるが、その実効性確保にはクリアすべき課題が山積している。「山口新体制」のスタートにあたり、正副会長に今後の都中建と所掌常任委員会における重点課題、課題など聞いた。

（4面に細沼副会長はじめ、新役員の内情を掲載）

渡邊 5月23日の都中建総会において、山口巖副会長が就任し、新体制がスタートしました。正副会長から座談会形式でお話を頂きます。まず、山口新会長にご挨拶をいただきます。

山口 都中建は私達が学生の頃に発足したと思いますが、当時は建設業界の中で大手さんの声が強くて、中小の意見を反映していく場として設立されたという経緯があります。その後40数年、歴代の会長さんのもとに様々な活動を展開してきましたが、今は世の中も変化してきて

皆さんの合議のもとに運営する時代。当初はお断りしたのですが、協会連の基本的な考え方については役員が協力できないものがあるというところで、会長の受け付けした次第で問題など課題はさらに複雑です。

協会活動としては、今までの課題に継続して取り組んでいくことが基本になると思います。まずは「担い手の確保」で、一番は「担い手の確保」です。工事発注の標準化、生産性の向上、ダンピングの防止も重要な課題です。生産性向上で国交省が進める「ICT」は、大手さんですと導入しやすいのですが、担い手不足の中で、我々中小としてもその可能性を探っていくべきテーマと考えます。

具体的なには各委員会で内容を詰めて頂いて、今まで以上に情報発信ができる団体していきたいと思っております。

渡邊 渡辺副会長さんのお父さん、また、私の父などが会長の時もその時

担い手確保、生産性向上 山口



山口 巖氏



鳥越 雅人氏

好循環構造へ会員増強 鳥越

で、地域に精通した、心配りのできる企業が集まり、という部分をさらに強くしていくには、都中建の存在意識も高まる。その役割の一端を担っていくように頑張っていくべきです。

渡邊 建築委員長を兼ねる鳥越副会長は、協会の活動、委員会活動について入札の防止も重要な課題です。生産性向上で国交省が進める「ICT」は、大手さんですと導入しやすいのですが、担い手不足の中で、我々中小としてもその可能性を探っていくべきテーマと考えます。

具体的なには各委員会で内容を詰めて頂いて、今まで以上に情報発信ができる団体していきたいと思っております。

渡邊 渡辺副会長さんのお父さん、また、私の父などが会長の時もその時

都中建の魅力アピール 渡辺



渡辺 健司氏

りが進んでいます。様々な情報発信の効果を高め、会員の増強を図るためにも、我々新世代の役員が都中建の魅力アピールしていくかなければいけません。感じていただければ幸いです。

渡邊 次に、労働資材委員会で、森新副会長さんにお話しします。森 労働資材委員会は前回までも佐久間さんの下で委員をやらせて頂いたのですが、その

改善が急務で、個々の企業努力だけではそれが難しいこともありますが、しいこともありますが、労働資材委員会の最大のテーマは担い手確保にしたいと思います。昨年度、政に対して工事発注の平準化など労働者確保・育成に必要な対応を要望しています。

渡邊 一通り皆様からお話をいただきました。最後に、広報委員長の方々にお願いです。今後、山口市新体制のもと、若い人たちに、協会の活動に参加して、ホームペー

一方、百数十社という規模はお互いの顔が分かるギリギリの数で、大組織よりも緊密なお付き合い、意志の疎通が図りやすいという側面もあり、これはメリットの一つです。ただ、災害協力など、都中建の役割をさらに強化するには数の拡大が重要ですから、そうした良きづくりに社会貢献等、志を同じくする優良企業が、都中建の魅力をアピールして、目を惹きつけてもらいたい。400社の入会を心より歓迎します。

鳥越 再入会して貰うのにも、やはり入会するメリットが重要でしょう。地域の中小建設業の集まり等に行き、それをアピールするなどして掘り起こすことが大事だと思います。

山口会長がおっしゃった災害協力においても、現在の会員数では十分とはいえない。会員の数が増えれば、都中建としての行動力強化に伴って、行政への発言力も増

- 出席者**
- 会長 山口 巖氏
(総務企画委員長 山口建設社長)
- 副会長 鳥越 雅人氏
(土木・舗装委員長 徳力建設工業社長)
- 副会長 渡辺 健司氏
(建築委員長 渡辺建設社長)
- 副会長 森 栄氏
(労働資材委員長 森建設社長)
- 〈司会・進行〉
副会長 渡邊 裕之氏
(広報・渉外委員長、渡邊建設社長)

を集約しながら、東京都の建設局、財務局等に色々と働きかけていきた。都が変われば、市町村も変わっていく。また、労働資材委員会などの委員会との連携も深めながら、担い手確保、若者の定着率向上、技術力アップにも取り組んでいきたいと思います。災害対策では、大手の新たな課題、ソフト面も積極的に活動していきたいと考えています。

また、都中建が歴史を

れだけ建築市場が大きく縮小して企業の疲弊が激しかったということだ。都が変われば、市町村も変わっていく。また、労働資材委員会などの委員会との連携も深めながら、担い手確保、若者の定着率向上、技術力アップにも取り組んでいきたいと思います。災害対策では、大手の新たな課題、ソフト面も積極的に活動していきたいと考えています。

また、都中建が歴史を

ており、その時の知識をさらにいい形にしていければと思っております。労働資材委員会の最大のテーマは担い手確保にしたいと思います。昨年度、政に対して工事発注の平準化など労働者確保・育成に必要な対応を要望しています。

渡邊 一通り皆様からお話をいただきました。最後に、広報委員長の方々にお願いです。今後、山口市新体制のもと、若い人たちに、協会の活動に参加して、ホームペー

一方、百数十社という規模はお互いの顔が分かるギリギリの数で、大組織よりも緊密なお付き合い、意志の疎通が図りやすいという側面もあり、これはメリットの一つです。ただ、災害協力など、都中建の役割をさらに強化するには数の拡大が重要ですから、そうした良きづくりに社会貢献等、志を同じくする優良企業が、都中建の魅力をアピールして、目を惹きつけてもらいたい。400社の入会を心より歓迎します。

鳥越 再入会して貰うのにも、やはり入会するメリットが重要でしょう。地域の中小建設業の集まり等に行き、それをアピールするなどして掘り起こすことが大事だと思います。

山口会長がおっしゃった災害協力においても、現在の会員数では十分とはいえない。会員の数が増えれば、都中建としての行動力強化に伴って、行政への発言力も増